

本紙は京都府交響プロジェクト交付金及び伏見区区民活動支援事業補助金の支援を受けて制作されています。
編集長／神門正和（ごうど まさかず） 紙面に関するお問い合わせ・取材や広告のご出稿依頼は 090-9611-6299 まで。

『向島ユースセンター』は若者にとって、アフター5の「居場所」に

『向島ユースセンター（主催：同実行委員会）』は、若者の「居場所」として、毎週金曜日、午後5時～8時まで『むかちゅうセンター（元向島中学校）』の2階交流ルームや体育館、グラウンドを使って行われています。中学生から30歳までの若者なら、だれでも利用できます（予約不要、利用料無料）。

取材に行った日、若者を見守るスタッフは、「ユースサービス協会」の寺田純子さん、ボランティアの大学院生で、『向島ユースセンター』委員長の長澤敦士さん、大学院生で実習生の江頭信也さんです。

午後5時を待ちかねたように、授業を終え、自宅で着替えを済ませた近くの中학생たちが次々とやってきます。スタッフの寺田さんと長澤さんが用意した名簿に登録し、体育館でバスケットボールをはじめました。

午後6時を過ぎると、今度は授業やクラブ活動を終え、一度帰宅して着替えを済ませた高校生たちが自転車などでやってきて、名簿に登録したあと、バスケットボールをはじめました。体育館では、バドミントンや卓球もできます。2階交流ルームでは、高校生が音楽に合わせて踊ったり、ゲームをはじめました。

『むかちゅうセンター』に集まった中学生、高校生は、グループ毎にグループ長が決められ、あわせて四十人を超えました。スタッフの寺田さんによると月1回、『向島ユースセンター』が午後8時に閉館後、近くの福祉施設『愛隣館』の地域交流室を借りて、地元の住民のみなさんによるカレーライスなどが振る舞われるとのことでした。

向島藤ノ木学区の中学生には、『むかちゅうセンター』が遠いので、藤ノ木学区にも『向島ユースセンター』の設置が検討されています。



お問い合わせは、京都市中央青少年活動センター：■電話／075-213-3681 ■E-mail／kodomoandwakamono@gmail.com

防災訓練が、向島二ノ丸学区・向島学区・藤ノ木学区で行われました

昨年11月14日向島二ノ丸学区、11月21日向島学区、11月28日向島藤ノ木学区と向島南学区で、防災訓練が行われました。向島二ノ丸学区の防災訓練は、昨年コロナ禍で中止されたため2年ぶりに『むかちゅうセンター（元向島中学校）』で行われました。訓練では、同センターに保管されている「避難所のパーティション用テント」「簡易トイレ」「ダンボール製の簡易ベッド」などを、参加者も一緒に組み立てる訓練が行われました。中庭では燃え方実験が行われ、消防署員から、「防災生地を使ったカーテンやシーツ、布団、パジャマ等の使用が望まれる」との説明がありました。11月28日に『向島藤ノ木小学校』で行われた藤ノ木学区の防災訓練では、中国帰国者のみなさん

にも参加していただきました。



①パーティション用簡易テント②災害用の簡易トイレ③ダンボール製の簡易ベッド④中庭で行われた燃え方実験

向島南学区の「とんど」が 2年ぶりに行われました



1月9日（日）、向島南学区の火祭り「とんど」が、元向島南小学校のグラウンドで行われました。

昨年はコロナ禍で見送られたため、2年ぶりの開催となりました。

点火に先立って、和太鼓ユニット『神威（かむい）』のみなさんの演奏が行われ、伏見区役所の山本区長の挨拶がありました。「とんど」は、住民のみなさんと地域の今年一年の無病息災・安全を願う神事です。地元のみなさんや子どもたちが持ち寄った「書き初め」や正月飾りなどが、「とんど」の中に供えられました。参加者全員による拝礼と二拍手のあと、午前8時「とんど」に点火され、炎が空高くあがりました。会場には、地元のみなさんとともに、国会議員や京都府市会議員も多数参加しました。



8年目を迎えた、 二ノ丸社協主催のラジオ体操



向島二ノ丸社会福祉協議会主催の「ラジオ体操」が、月曜日～金曜日、毎日朝7時から7時10分頃まで行われています（祝祭日、雨の時は中止です）。場所は、向島ニュータウンの「向島中央公園」東詰め、噴水のある広場です。取材に訪れた1月18日朝は摂氏1度まで冷え込みましたが、40人程が集まりました。宇治市在住で、全国ラジオ体操連盟公認1級ラジオ体操士の澤野美也子さんと、ラジオ体操の音楽に合わせて、第1体操、第2体操を行います。昨年、日本郵政グループ「かんぽ生命」から、ラジオ体操を7年間続けてきたことに対し表彰状が贈られました。



向島二ノ丸社協主催の「ラジオ体操」は、どなたでも自由に参加できます。

留学生が墨絵を体験！

昨年11月7日（土）、向島ニュータウン・センター商店会にある「京都文教マイタウン向島（通称MJ）」で、京都文教大学「地域でつながる日本語教室」を実施している学生3人が、「向島学生センター」の留学生らと墨絵ワークショップを行いました。

参加した留学生は、メキシコ人と中国人のご夫妻とイギリス人のご夫妻、合わせて4人です。

講師は、墨の濃淡を生かして、生き生きとした子どもを描くアーティストの神門（こうもん）やす子さん。

神門さんの指導で、筆の持ち方やいろいろな線の描き方を練習。続いて、神門さんが流す音楽を聴きながら、それぞれ心に浮かんだ情景を次々と描いていきました。同じ音楽でも一人一人描く絵はまったく違います。音楽が変わると、抽象画になったり、風景画になったり、文字が躍ったりと、絵の雰囲気も変わります。

最後は、自分の自信作を選んで記念撮影。参加した留学生のみなさんは、お習字も墨絵も初体験でしたが、「とっても楽しかった」と大喜びでした。



神門やす子さんの作品